



未来へつなぐ

Vol.
169

文／本間 吾里砂

二〇二二年二月に発生した記録的大雪による札幌圏大規模輸送障害を教訓に安定輸送の確保とお客様の利便性向上に向け、冬期対策を推進

改善策を講じ 冬期の安定輸送を確保

JR北海道では、二〇二二年二月に札幌圏の記録的大雪で発生した二度にわたる大規模輸送障害を教訓に、その改善策を二〇二三年度冬期から計画的に進めています。二〇二三年度冬期についても継続して、札幌圏を中心に安定輸送の確保に取り組む方針です。

除雪機械の増強については、二〇二三年度に札幌圏に排雪モーターロータリーを五台導入。四台の老朽取り替えに



排雪モーターロータリーによる除雪

加え、函館・千歳線白石駅には一台を増備します。続いて、お客様が必要とする情報をタイムリーに提供するため、ホームページ「運行情報」をリニューアルし、発車時刻表形式での運行情報の提供とX(旧Twitter)による運行情報の自動更新などを開始しました。一月からは「Kitacaエリア(札幌近郊)列車運転状況」から対象エリアを大幅に拡大し、運行中の列車の走行位置や遅延時間を路線図上に列車アイコンで表示。さらに

三十分以上の遅延や運休が発生する場合などに、該当する線区をオレンジ色で表示する「影響エリアマップ」をホームページとXで配信し、お客様に情報がいち早く届くよう改善を図っています。

また、二〇二二年度から開始した札幌圏における集中的な除雪作業についても、二〇

二四年二月六日(二月二十四日の土曜日に、夜間の三本の列車を計画的に運休して実施します。

前年度の事象にも対応 全社で取り組む冬期対策

海水が凍結したことで停電が発生し、多くの列車が長時間運行不能となりました。この事象に対しては、夜間でも使用可能な暗視機能を持つ高性能の波監視カメラを増設することで、早期警戒体制を整備します。

二〇二三年度冬期に札幌圏で発生した輸送障害を受け、新たな取り組みも始まっています。その二つが、函館線・江別―豊幌間に設置した「視程計」です。二〇二三年一月二十五日、吹雪による視界不良等が原因となり、同駅間で計三本の列車が長時間停止しました。「視程計」は吹雪の中、見通し可能な距離を測定する装置で、この冬から視界不良の早期把握に向け、試行観測を始めます。また、同日、海に面した函館線・朝里―銭函間では、電車に電気を供給する架線に高波がかかり、その

そのほか、全道各地にラッセル車十三両と排雪モーターロータリーなどの除雪機械二八台を配備し、安定した除排雪体制を確保。一方、駅構内は機械による除雪が困難な場所が多いことから、二日あたり二〇〇名体制で道内各駅の除排雪にあたります。踏切についても、冬期間は自動車の往来により、レールのフランジウェイ部(列車の車輪が通過する部分)が雪で埋まってしまいうため、在来線に約二四〇カ所ある踏切では、除雪係員が手作業で除排雪を行います。